

## 米国における大学教員養成研修 —PFFイニシアチブの活動とその成果—

○北海道大学 宇田川拓雄

### 1. はじめに

本報告では米国における大学教員養成プログラムの実施と現状を報告し、大学および大学院における専門的職業人教育制度の導入について考察を行う。

### 2. PFFとPFFイニシアチブ

Preparing Future Faculty (大学教員養成研修、PFF) とは大学教員をめざす院生に大学教員としての資質、例えばティーチング技能、学生指導、成績評価、職業倫理、管理運営等を教える研修プログラムの総称である。

PFFイニシアチブ(大学教員養成推進計画)は米国大学協会(AAC&U)と大学院協会(CGS)が財団や連邦政府の支援を受けて1993年から推進している大学改革プログラムである。PFFイニシアチブは北米の研究大学で自然発生的に始まったPFF研修を整備・体系化・プログラム化し、全国の大学に普及させようとする活動である。

PFFイニシアチブでは第1期(1993-1997)はPFFモデルの開発、第2期(1997-2001)はプログラムの設計と普及を行った。第3期(1998-2000)は理系分野の五つの学会と連携して15の大学を支援した。第4期(1999-2002)では六つの人文社会科学系学会と連携し25の大学を支援した。本研究ではPFFイニシアチブとアメリカ社会学会(ASA)が連携して支援した社会学部のPFF実施例を取り上げる。

### 3. 大学院の教育モデルの修正と資格制度の導入

PFFの根幹は研究者養成システムとして設計されている大学院教育のあり方を変えようとする試みである。大学院のカリキュラムの中心は研究者養成を見習い修行方式で行う教育である。これは教育モデルとしては大変よくできており、世界中の大学で制度化されている。

米国では戦後、大学進学率の上昇とともに大学院生数も増加した。院生は研究者として教育されるが大学教員になるのはその一部に過ぎない。大学に就職しても、全員が研究大学に就職できるわけではない。大多数は教育の負担が大きいティーチングカレッジ(教育を主たる目的とする大学)の教員になる。しかしそこでも採用と昇任には研究実績が評価されるため教育はどうしても二の次となる。

米国は日本より30年ほど早く大学教育の大衆化が始まり、多様な学生のための丁寧な教育の必要性は歴史的に深刻な社会問題である。大学院教育は研究者養成に特化しているが、PFFイニシアチブはそれをティーチング教育を含む広い専門的職業人養成教育に発展させることを目的としており、その成果は少しずつ広まりつつある。現在、米国では70以上の大学院がPFF受講修了者に対して独自の資格を発行しティーチングの能力を保証している。PFFを大学院正規科目化したところもある。PFFは現時点では外部資金と教育改革に熱心な教員の自発的参加による実験にとどまっている。PFFイニシアチブではPFFを資金とインセンティブの裏付けのある専門的職業人育成制度として定着させることを提言している。資格制度はティーチングの質の確保に有効で、今後、日本での導入もあり得るが、研修項目の選択や資格とアカデミックフリーダムとの関係を十分検討する必要がある。【本研究は科学研究費(挑戦的萌芽研究、2014~2015、研究代表者：宇田川拓雄)、JSPS課題番号「26590207」の助成を受けたものである。】